

学校評価書

平成29年度 葦崎東中学校

(自己評価)

教職員による学校評価アンケート

前期 平成29年 7月10日～ 7月20日

無記名・評定尺度4段階・一部記述式・単純集計

【配布数 32 回答数 32 回収率 100%】

後期 平成29年11月6日～11月17日

無記名・評定尺度4段階・一部記述式・単純集計

【配布数 32 回答数 32 回収率 100%】

(参考アンケート)

(1) 保護者アンケート 平成29年11月6日～11月17日

無記名・評定尺度5段階 (E:わからない を追加)・一部記述式・単純集計・厳封提出

【配布数 431 回収数 425 回収率 98.6%】

(2) 生徒アンケート 平成29年11月6日～11月17日

無記名・評定尺度4段階・一部記述式・単純集計

【配布数 431 回収数 422 回収率 97.9%】

次の項目について自己評価をまとめている。

- 1 本年度の評価結果がよかったものである。今後も本校の特色として、全職員をあげて取り組んでいきたい。
- 2 本年度の評価結果があまりよくなかったものである。改善の手立てをたて、本校の教育水準を向上させたい。
- 3 昨年度同期と比べよくなったものである。今後も全職員をあげて取り組んでいきたい。
- 4 昨年度同期と比べあまりよくなかったものである。改善を進めたい。
- 5 改善項目への取り組みの状況をまとめたものである。

さらに、自己評価結果の数値については、

各項目についての評価は、(A:そう思う B:だいたいそう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)

の4段階から該当すると思う段階(A・B・C・D)の1つに○印を付けて回答している。

参考として付けた、保護者アンケート結果、生徒アンケート結果については、全校からの回答割合を%数値で表記した。

また、表中のavg. は、A～Dを各4～1点として、平均として表した数値である。平均として2.5ポイントが目安となる。

(E:わからない については点数化していない)

前期比、前年比欄は、このavg. を前期(本年度7月実施)と比較したもの、前年(昨年度12月実施)と比較した数値である。

平成29年度 自己評価(後期)

1 「そう思う」というイメージが高かった(平均が高かった)内容

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
12	登下校の安全(交通・防犯)対策・指導が適切に行われている。	3.7	0.1	-0.1
	課題・意見 苦情がまだある。			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も全職員が協力して適切に行っていく。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
8	校内研究は適切に推進されている。(課題設定・組織・運営)	3.6	0.0	0.2
	課題・意見			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も全職員が協力して適切に推進していく。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
1	教育環境(職員・施設・生徒・家庭・地域)の実態に即した学校経営が行われている。	3.6	0.1	0.0
	課題・意見			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も実態に即した学校経営を行う。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
3	学年・学級の教育活動計画が、経営方針や努力点を踏まえた具体的ものになっている。	3.6	0.1	0.0
	課題・意見 学年会(朝の打合せ)等共通理解を図りながら進めている。			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も経営方針や努力点を踏まえて具体的にを行う。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
2	学校経営方針・努力点を理解し、協力的な学校運営がなされている。	3.6	-0.1	0.0
	課題・意見			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も経営方針・努力点を理解し、協力的な学校運営を行う。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
14	健康診断(生徒)は事前指導、事後指導が適切に実施されている。	3.6	-0.1	-0.2
	課題・意見			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も健康診断を適切に実施していく。			

2 「そう思わない」というイメージが高かった(平均が低かった)内容

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比	
42	レベルアップ学習は効果が認められる。(改善項目⑧)	2.9	-0.2	0.0	
	課題・意見				学習時間を設けることは良いことだと思うが、もっと効果が出るような対策をとりたい。
					自習の生徒が多かった。
					授業で進めた方がよい。 必要性、内容を検討したい。
総括	◎効果を認める割合がすくない。効果をあげる取組を考えたい。				
改善	◎改善策をもち、来年度の教育課程に活かす。 ◎改善策として、レベルアップ学習の意義を再検討し、廃止を含めて次年度の教育課程に変更を示す。特に、「きずなの時間」との関連をもって検討する。				

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比	
20	道徳の時間の調査週(26週分)までの実施時数 A 24時間以上 B 21~23時間 C 18~20時間 D 18時間以下(改善項目④)	2.9	-0.1	0.0	
	課題・意見				他に代えられている。
					行事等のために使われていることもあるようです。
					授業としての系列として3年間の充実を考えていかなければならない。 行事の準備や反省を入れても足りていない。
総括	◎道徳の実施時間の確保については、課題がある。時間数の確保に向けて至急取り組みたい。				
改善	◎改善策をもち、来年度の教育課程に活かす。 ◎引き続き改善項目として取り組む。 ◎改善策として、学年のなかでの共通した指導を作成しながら実施するなど同一歩調で進める。特に、「私たちの道徳」の利用については、確認しながら進める。				

3 昨年度同期と比べイメージが良くなった(平均が高くなった)内容

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比	
33	不登校生徒を復帰させる指導, 不登校生徒をつくらない指導をしている。(改善項目⑥)	3.5	0.4	0.3	
	課題・意見				復帰した。
					対応はしているが、なかなか本人や親との連絡がとりにくい(つながらない)ことが多い。
					ここに応じた(家庭環境、思春期等)きめ細かな対応が必要である。 なかなか連絡がとれていない。
総括	◎改善項目として取り組み、昨年度に比べ、前期に比べ不登校生徒への指導は、よくなってきている。復帰した生徒もあり効果を上げている。後期になり、不登校生徒が増える傾向もあり取り組みの改善は、今後も必要と思われる。				

番号	具体的な評価内容		今回avg.	昨年比	前期比
39	「通信表の二期制」の目的は達成されている。(改善項目⑦)		3.0	0.4	0.1
	課題・意見	三期制にもどしてもよいと思う。			
		三学期制がよい。 本来は長いスパンで2回の評価を出す形であったが、現実には年間4回の評価を出しているに等しい。学期ごとの評価の方がよい。			
総括	◎改善項目として取り組み、「通信制の二期制」のよさを伝えられるように取り組んできた。短い3学期での評価、休業を区切りとした評価について検討を進める。				

番号	具体的な評価内容		今回avg.	昨年比	前期比
19	評価規準と評価方法を明確にし、適切な評価(客観性と信頼性)に取り組んでいる。		3.4	0.3	0.1
	課題・意見				
総括	◎評価規準と評価方法を明確にしなが、適切な評価に取り組めた印象がある。今後も適切な評価に取り組みたい。しかしながら、保護者、生徒にとっては納得がいかないものもあるようである。きちんとした説明ができる評価をこれからも継続して進めたい。				

4 昨年度同期と比べイメージが悪くなった(平均が低くなった)内容

番号	具体的な評価内容		今回avg.	昨年比	前期比
7	校務分掌は、適切に機能している。		3.3	-0.3	0.0
	課題・意見	分掌によって仕事が集中しすぎていると思うものがある。			
総括	◎分掌が適切に機能しているという印象はある。しかし、仕事内容が集中する分掌もあるが、先生方の能力を発揮していただき順調に校務が進められている。				
改善	◎仕事が集中する分掌があるのも職務上やむを得ない。個人の負担減を考えて、分担する仕事を互いに補えるように取り組んでいきたい。				

番号	具体的な評価内容		今回avg.	昨年比	前期比
44	生徒活動(委員会活動・部活動)は効果的に行われている。		3.2	-0.3	-0.2
	課題・意見	委員会活動がない期間があった。			
		委員会活動の積極的な活動が欲しい。(活動している委員会としていない活動の差が激しい) 委員会活動の時間の確保を図りたい。			
総括	◎生徒活動は効果的に行われているという印象がある。しかし、委員会の活動時間の確保や活動内容の充実にはさらに検討する必要がある。				
改善	◎毎日活動する委員会や、ある時期に限って活動する委員会がある。月に1度程度は、活動できるように時間設定し、計画的に活動を進めるよう生徒会の自治的活動として進めていきたい。				

5 改善項目への取り組みの状況

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
6	会議は、能率的に行われている。(改善項目①)	3.1	-0.2	0.2
	課題・意見			
総括	◎少しずつ改善する方向にはなっているという印象がある。しかし、職員の多忙化解消への取り組みのひとつとして会議を能率的に進めて行きたい。			
改善	◎来年度も改善項目として継続して取り組む。 ◎会議の開始時間を早い時間となるよう可能な限り設定する。提案時間の設定を実際可能なものとして計画する。会議終了時間内におさまるよう事前に検討する。当日の持ち込み資料による提案などは極力扱わないこととする。事前の運営委員会での検討を必ず行うことを確認する。 ◎さらに、改善策として、 ・口頭で説明する内容をさらに吟味し、提案を簡素化する。 ・提案資料に前もって目を通しておいてもらう。 ・スピーディーな司会進行を心がけ、質問、意見等ないものは原案賛成と見なし進める。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
17	生徒が授業において「わかる」「できる」という思いを感じている割合は高いと思う。(改善項目②)	3.1	0.1	0.0
	課題・意見			
総括	◎少しずつ改善する方向にはなっているという印象がある。しかし、昨年度までの評価とほぼ同じである。継続して取り組む必要がある。保護者、生徒ともに昨年度とほぼ同じである。改善が見られたとはいえない。			
改善	◎来年度も改善項目として継続して取り組む。 ◎必ず授業の終末では、振り返る時間を確保して、「わかった」「できた」という確かめができる時間を確保する。また、記録が残るような授業づくりを進める。 ◎さらに、改善策として、「見通し、振り返り」の流れのなかで、生徒が興味を持ち何のために学んでいるのかが明確になるような展開を考えたい。			

参考資料
生徒アンケート

番号	質問項目	今回avg.	昨年
7	あなたは、授業で学んだことが身についていると思いますか。	3.1	3.2
8	先生はわかりやすい授業をしてくれますか。	3.2	3.3

保護者アンケート

番号	質問項目	今回avg.	昨年
6	お子さんは、学校の授業がわかりやすいと言っていますか。	2.2	2.2

番号	具体的な評価内容		今回avg.	昨年比	前期比
18	授業において個に応じたきめ細かな学習指導に取り組んでいる。(改善項目③)		3.1	0.1	0.1
	課題・意見	個別指導をしたい生徒がいるが放課後は部活動優先で、テスト前レベ学だけでは時間が足りない。			
		普通学級にいる特別な支援を必要とする生徒たちが多く、個別の指導に手がかかる。そういう生徒はグループの学習になってもなかなか活動に加われず大変だ。			
		1時間ごとの授業のめあてを明確にし、わからない生徒に対してのヒントシートなど工夫した授業が必要である。			
		できる子とできない子、授業をうけない子とそれぞれに合わせるのがなかなかできないなど感じています。			
つもりになっているところがある。					
総括	◎少しずつ改善する方向にはなってきたという印象がある。しかし、昨年度までの評価とほぼ同じである。継続して取り組む必要がある。保護者も昨年度とほぼ同じである。改善が見られたとはいえ個に応じた指導をする時間を、普段の授業のなかで、さらには放課後等の特設した時間の設定を考える必要がある。				
改善	◎来年度も改善項目として継続して取り組む。 ◎個に応じた指導をするための評価の時間の設定された授業づくりをすすめる。さらに、そのときの「手だて」のある授業を進めたい。さらに、必要に応じて、放課後等の時間設定を検討する。課題設定においても可能な限り個に応じられる授業を構想する。 ◎授業の改善を引き続き行いながら、「レベルアップ学習」の運営、放課後の活動時間の設定や長期休業中の補習などの在り方を検討する。				

参考資料

保護者アンケート

番号	具体的な評価内容		今回avg.	昨年比	前期比
16	学校は、きめ細かな学習指導や評価を行っていると思いますか。		2.4	2.3	
	回答	◎思うとする保護者の割合は低い。一斉教授の授業からの脱却を図るよう授業改善を図ってきている。さらに、評価が目標準拠のものであり、かつてのような相対評価や、絶対評価とも異なる評価であることの理解を保護者にも求めていく。さらに、教師は指導と評価の一体化を図り、妥当性のある評価を進めてきている。しかしながら、保護者には不満が見られている。必要に応じて保護者への説明を丁寧に行い、生徒にも納得ができるよう説明をしていく。			

番号	具体的な評価内容		今回avg.	昨年比	前期比
27	家庭学習を支援する手立てを行っている。(改善項目⑤)		3.2	0.2	0.1
	課題・意見	自主学やテスト前には取組表の記入などを行っているが、取り組み方は個人差が大きい。			
		自主学習ノートの推進をしているが、徹底が難しい。			
総括	◎少しずつ改善する方向にはなってきたという印象がある。しかし、昨年度までの評価とほぼ同じである。保護者、生徒とも昨年度とほぼ同じである。家庭学習を支援する手立ては今後も必要である。				
改善	◎来年度も改善項目として継続して取り組む。 ◎学級担任による「家庭学習のすすめ」(県教委)を使った学級指導を必ず実施する。 ◎自主学習ノートを使った家庭学習について継続して指導する。提出率を上げる。				

参考資料
生徒アンケート

番号	質問項目	今回avg.	昨年
11	あなたは、家庭で毎日勉強していますか。	3.1	3.1

保護者アンケート

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比
7	<p>お子さんは、家庭で毎日勉強していますか。</p> <p>回答 ◎保護者とすればもう少し家庭学習をして欲しいという期待がうかがえる。家庭学習の充実に向けて、学校としても取組を進めたい。県教委が進めている家庭学習チェックの日(8のつく日)などを利用して、家庭学習の充実を図れるようにしていきたい。また、教師は家庭学習の充実を図るために「一人一実践」を進めてきている。どのような取組なのかを保護者に理解できるように説明する機会をもっていきたい。</p>	2.8	2.8

6 以下の項目については、来年度改善項目として取り組む。

- | | | |
|----|---------------------------------------|----|
| 6 | 会議は、能率的に行われている。 | 継続 |
| 17 | 生徒が授業において「わかる」「できる」という思いを感じている割合は高いと思 | 継続 |
| 18 | 授業において個に応じたきめ細かな学習指導に取り組んでいる。 | 継続 |
| 20 | 道徳の時間の調査数(14週)までの実施数。 | 継続 |
| 27 | 家庭学習を支援する手立てを行っている。 | 継続 |
| 33 | 不登校生徒を復帰させる指導, 不登校生徒をつくらない指導をしている。 | 継続 |
| 39 | 「通信表の二期制」の目的は達成されている。 | 継続 |
| 42 | レベルアップ学習は効果が認められる。 | 継続 |

学校関係者評価

1 学校関係者評価委員会

- 学校評議員(5名)に上記の自己評価に関する意見をいただいた。
- 平成30年2月8日に開催した。

2 評価の内容

- おおむね自己評価にある改善の手立てを推進して行って欲しい。
- 家庭学習の充実にむけて
 - ・ 家庭によって差があるのではないか。本人のやる気スイッチを上手にオンすることが大
 - ・ 「自分で学んだことは裏切らない。」というコピーが実感できるような取り組みをして欲し
 - ・ 先生によって量や質が異なる。同じ教科でも差があるようで気になる。
 - ・ 全員を対象にする提出が義務つけられた「宿題」については、「量」を検討して欲しい。さらに、教科間でのバランスも検討する必要がある。(ワーク、テキスト類の提出の時期が、同じ時期になっていて、生徒の負担はかなり大きいようだ。单元ごとでの提出を充実するなど取り組みについて考えることをして欲しい。)
 - ・ 家庭での「読書」はぜひして欲しい。「好きな読書」を思うだけする経験をさせて欲しい。

- 生徒指導に関して
 - ・ 東中生は真面目すぎて、あまり個性を感じない。個性的であって、個性を生かすことができる体制をつくって欲しい。
 - ・ おとなしい生徒が多いと思う。普通な表現ができるようにして欲しい。変に大人びているような気がする。
 - ・ 教師の目から忘れられている子が増えているのではないか。教師と生徒が正反対の方向に分かれてしまうような学級はないと思うが、そのようなきっかけをつくる担任にはならないで欲しい。冷めている学級には、「いじめ」を感じ、担任の毅然とした態度とともに、生徒に自ら寄り添う対応が必要であると考えている。
 - ・ おとなしい生徒が多いと思う。普通な表現ができるようにして欲しい。変に大人びているような気がする。
- 「いじめ」については、今後も実態をとらえて指導に全力を挙げて取り組んで欲しい。
 - ・ スマートフォン・携帯電話等の、LINEやSNSによるいじめについても、掌握が難しいが対応を進めて欲しい。
 - ・ 「我が家のルール」づくりはよい取り組みだと思う。ぜひ、実施して欲しい。ただ、ここでも家庭ごとの取り組みに差があると感じる。
- 通信表の「二期制」のわかりにくさへの対応を進めて欲しい。
 - ・ 小学校からなじみのある「三期制」の通信表に戻して欲しい。来年度をかけて、「三期制」に戻したときの課題への対応を進める。（一学期の中間試験や三学期の期末試験のあり方、調査書を含めた学年末評定のあり方などには、十分な対策をして欲しい。他校の生徒と比べ不利にならないように取り組んで欲しい。
- 今後も、地域との交流を図ることを、保護者も含めて進めていって欲しい。